

## 第5回亀山市学校給食検討委員会議事録

日時・場所	平成27年6月2日(火) 午後1時00分～午後3時27分 亀山市役所 第2・3委員会室
出席委員	仲律子委員長、大川吉崇副委員長、遠藤博美委員、川口謙次委員、伊藤登美子委員、玉村仁子委員、東裕美委員、本田実委員、松井美樹委員、北崎亜紀委員、櫻井恵美子委員、川戸磨美委員、吉崎直子委員、豊田達也委員、富田真左哉委員、大澤哲也委員、青木正彦委員、藤尾春樹委員、原田和伸委員
欠席委員	上田真梨子委員
事務局	佐久間利夫教育次長、中原博学校教育室長、学校教育室 原千里、小林真理子
事 項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 あいさつ</li> <li>2 委員の委嘱及び任命について</li> <li>3 視察報告について【資料1】</li> <li>4 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 中学校給食の協議について 【資料2】</li> <li>(2) デリバリー給食導入からの流れについて 【資料3】</li> <li>(3) アンケート調査結果の分析及び考察について【資料4】</li> </ol> </li> <li>5 その他</li> </ol>

### 議 事 内 容

#### 【教育次長】

みなさんこんにちは。本日はお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。まだ到着されてない委員の方もいらっしゃいますが、時間ですので始めさせていただきます。

それでは、まず平成27年4月1日付けにて、机上に配付のとおり、4名の委員の交代がありましたので、ただいまより委嘱状の交付をいたします。委員の皆様はお名前を呼びますので、その場にお立ちください。呼名は、学校教育室長よりいたします。教育長、委員の前までお願いします。

(3名の委員に委嘱状の交付)

なお、市職員の豊田達也委員については任命いたします。

それでは、教育長よりご挨拶いただきますのでお願いいたします。

【教育長】

みなさんこんにちは。みなさんそれぞれのお仕事ご多用の中、ご出席いただきましてありがとうございます。27年度に入りまして、それぞれの学校、幼稚園において順調にスタートをきったところですが、はや初夏ということで、時間の過ぎていくのは早いなど日々感じているところです。教育長訪問が本日から始まりまして、午前中にある学校を訪問させていただきました。そこで、給食の話題が出ました。私自身は食べるということは命をつないでいくという意味でも、非常に重要であると感じており、そのエネルギーは子どもたちの学校生活に非常に大きい影響を与えるということを、学校訪問を通じてさらにその思いを強くしたところです。

今年度は、中学校の給食について委員の皆様のお考えを聞かせていただきながら、今後亀山市としてどのように進んでいったらいいかということをもとめていただきます。特に本日は、亀山市の行政のひとつの流れとして、方向性を固めていただくのに重要な会議になるかと感じています。委員の皆様方におかれましては、広く深いご見識の中からそれぞれのお立場でご発言をいただきまして、協議が活発に進んでいくことをお願いいたしまして、ご挨拶にかえさせていただきます。

【教育次長】

教育長におかれましては、ここで退席されます。

(教育長退席)

それでは、ここで、新委員の皆さんもみえますので、簡単に自己紹介をしていただきたいと思います。それでは、仲委員長よりお願いします。

(仲委員長より事務局職員まで順次自己紹介)

本日、上田委員が別の公務のため、欠席の連絡を受けていますので報告します。

それでは、仲委員長進行をお願いします。

【委員長】

ただいまより、第5回亀山市学校給食検討委員会を開催します。はじめに、亀山市審議会等の会議の傍聴に関する規程により傍聴の許可についておはかりします。現在、1名の傍聴を希望される方がみえます。本日の会議において傍聴の許可をしたいと思いますが、これに異議ございませんか。

異議なしとみなし、許可したいと思います。なお、途中傍聴を希望する方がみえましたら、再度皆様におはかりいたしたいと思います。

す。

(傍聴者 会議室へ)

まず、第4回亀山市学校給食検討委員会議事録につきましては、各委員了解のもと、すでに教育委員会ホームページで公開しておりますのでご確認ください。

続いて、本日は『アンケート調査結果の分析と考察』をまとめることが協議事項であります。事前にご意見をいただく中で、そもそもこの委員会はどこまで判断するのか、検討すべき論点を資料にしてほしいとの要望がありましたので、事務局より説明願います。

【事務局】 【資料2】について、説明

【委員長】 ただいまの説明について、何か質問などはございませんか。  
(なし)

それでは、ただいま説明にもありましたが、デリバリー給食を中部中学校で導入して6年が経っているということで、これまでどのような経過をたどってきたのか、改善内容を中心にまとめましたので事務局説明願います。このあと、アンケート結果の考察を考える上でも参考にしていただけたらと思います。

【事務局】 【資料2】について、説明

【委員長】 続いて、2月13日に北崎委員と事務局職員2名が中学校給食の視察に行きましたので、その報告をお願いします。

【北崎委員】 【資料1】にて報告

【委員長】 【資料2】についての説明、視察報告について、何か質問などはございませんか。  
(なし)

【委員長】 北崎さんは実際冷たいデリバリー給食を食べられたのですか。

【北崎委員】 はい、食べました。2月ということもあったのか、冷たいというのは食が進まないというか、子どもたちが喜ぶように、栄養面やメニューにおける様々な工夫はあったかと思われそうですが、やはり亀山市を先に試食してから行ったので亀山市とは全然違うというのが第

一印象です。

【委員長】 他に質問等はございませんでしょうか。それでは続いて、2月に実施した中学生全生徒を対象としたアンケート調査結果の分析と考察について協議します。

委員の皆様には、事前にアンケート調査結果をお渡しし、様々なご意見をいただきありがとうございました。皆様のご意見を元に資料4にまとめましたので、事務局より説明願います。

【事務局】 【資料4】の見方について説明。

続いて、「1 アンケート結果の分析について」を説明

【委員長】 それでは、ただいま説明をいただきました、分析の上で見たいグラフとして、(1)と(2)を示していただきました。残食が多い生徒はどのような昼食を望んでいるのかということですが、これに関し、何かご意見がある方はお願いします。特に好みに関しては突出した数値にはなっていないかなと思いますが、いかがでしょうか。

【副委員長】 視察に行っていた自治体は、見た目はいいが、そのままお弁当に詰めて、持ってきておいて出していますね。亀山市の業者は非常に丁寧で、運ぶ前や運ばれてきたあとに温度も測られていて、それから容器に移す面倒な作業をきちんとしているという印象を受けます。また、亀山の場合は、ご家庭で時間の余裕を持っている方が多い地区なのかなと思います。喫食率も以前から30%から40%までで推移しているのはそういったことができてきているのではないかと思います。私どもの保育園の調理も以前はそれぞれのところで全部で作っていたんですが、一本にまとめました。おかずを作って温度を保って運んで、到着して、温度確認、食前に温度確認をして配膳していた。ごはんはそれぞれのところで炊き、温かいものをなるべく温かく出そうとしていました。そういうところから考えていくと、この業者はとても丁寧に行っているが、金額が時代の流れと合うのかが心配される所です。

【委員長】 亀山では温かいものは温かくといった工夫や改善がされてきているので、このような数値にあらわれてきているのかなといったところも考えられるのかと思っています。他に何かご質問等はございますでしょうか。

では次に、(3)は対象者への配付数と回答率の記載があった方がよいというご意見をいただきました。委員の皆さん、加えるということではよろしいですか。それでは、加えさせていただきます。

(4)は、アンケート結果の分析の(5)の文について、終わりから2行目の家族状況や個々の都合という文章ですが、分かりにくいというご意見をいただきました。

委員の皆さん、どうでしょうか。

**【本田委員】** 何を合わせるのかを明記したらよいと思うので、内容としては、「メニューや量を合わせられる」と書き加えれば伝わるのかなと思います。

**【委員長】** 本田委員から「メニューや量を」という言葉を書き加えれば内容が伝わるのではないのかという意見がでましたが、事務局いかかですが。

**【事務局】** その通りです。

**【委員長】** それでは、「メニューや量を」という言葉を加えたいと思いますが、みなさんいかがですか。よろしいですか。では、事務局にて追記をお願いします。

(5)は、ご質問であります。平成24年度と今回のアンケート調査結果を比較した場合、亀山中の喫食率が急激に減少しているのはなぜかということです。これについては、事務局をお願いします。

**【事務局】** 【資料中、回答を説明】

**【委員長】** ご質問いただいた方よろしかったでしょうか。

それでは続いて、考察に入ります。今回の主な目的は、アンケート結果を分析し、この委員会の中で考察を作りますので皆さんよろしくをお願いします。

まず、考察をみなさんにまとめていただくにあたって、事務局説明をお願いします。

**【事務局】** みなさんからいただいたご意見をよく似た意見別にグループに分け、そこから、考えられることを考察としようという分け方ですが、よろしいですか。

**【委員長】** 委員のみなさんから、事前にいただいた意見をもとにグループ分

けをすると、大きく3つのグループに分かれたということです。一つ目はお弁当についての意見、二つ目はデリバリー給食について、三つ目は、センター方式、それ以外のものということで分けてあります。

それでは、まず3ページ、一つ目のお弁当についての考察を考えたいと思います。記入してある考察はあくまで事務局案ですので、委員の皆様のご意見を伺ってまとめていきたいと思います。まずは、少し時間を持ちますので委員のみなさんのご意見をお読みください。

まず、お弁当について考察を作っていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

**【吉崎委員】** 食育面、親子のつながり面でもとてもよくまとめられていると思います。

6割の生徒がお弁当を持ってきていて、そのうち2割の生徒がお弁当作りにも関わっていたということは、食育の面ではすごくいいことなので、そのあたりがあげてもらっていることと、親子のつながりもまとめられているので、弁当の意味が良く伝わってきます。

**【川戸委員】** 私の子どもはデリバリーもなくお弁当の中学校へ通っているのですが、私が思っていることをまとめていただいて、このとおりだと思います。

**【櫻井委員】** よくまとめられているので、このままでよいと思います。

**【松井委員】** お弁当を望む声が多いのはアンケート結果からとてもよく分かりますし、自身もそうだと思います。

**【委員長】** 保護者の方から意見がでましたが、先生方はいかがですか。

**【本田委員】** 1段目は、アンケートから分かることが書かれていますが、2、3段落目の文章は現状をいった文章であって、それがどのようにアンケート結果と関わっているかが見えにくいです。考察で亀山の保護者や生徒の意識に関して書かれていることが、アンケート結果のどの部分にでているのかがはっきりと分かる方がよいと思います。「意義があることである」としめるよりは、つなぎ言葉などを使って「このような結果からこのように考えられる」といった言い回しにした方がよいと思います。

1 段落目からどのようにつながっているのかまとめていただければと思います。この考察の内容については賛同します。

【委員長】

まず、1 段落目に関しては結果をこのまま記述したものなので、このままで問題ないであろうと。2、3 段落目に関しては一般的な現状を述べているので、これは亀山市に特化したことではないであろうというようなことがうかがえるということですので、最初の1 段落目を受けて、例えば「このような結果から核家族化の進展などにより」ときて、「家庭における食育を推進する上で意義があると考え」といったようなことでよいということですか。

つなぎ方があまいということでしょうか。

【本田委員】

一番強く感じたのは、「食生活の中心は家庭にあり」なんですが、これはだれが思っているのかなというのが分かりにくいということです。「食生活の中心は家庭にある」とこのアンケート結果からとったということですが、見た目だけを見ると今日的な課題に見えてしまいます。

【委員長】

事務局は立場的に中立なポジションで考察を作らざるを得ないのでというところもあるかと思いますが、6 割以上の生徒がお弁当を持ってきているということを考えると、食というのは家の人が作るということに意義があると感じられているのではないか、食生活の中心は家庭にあると生徒はとられていると考えられるのではないかと、この結果からこのようなことが考えられると因果関係を明確にした文章の方がよいということでしょうか。

文章に関しましては、個々で一言一句決めるのは難しいですので、今のご意見を参考に、反映させていただいて、事務局と委員長へ一任ということでしょうか。

【大澤委員】

アンケート結果の考察案について、分析する中で亀山中と中部中だけの結果のことしかないですが、問6のあなたはどんな昼食がいいと思いますかという質問において、関中の生徒は18.7%の生徒が弁当を希望しているという事実があるので、その部分も考察に加えた方がよいのではないかと考えます。

【遠藤委員】

お弁当のよさという意味ではここにまとめていただいたものが挙げられると思いますし、お弁当の意義と伺いますか、お弁当を持つ

てこられる子たち、あるいは作れる状況にある親御さんからみるとこれが本当のよさであると思います。お弁当を持ってこれる状況にない子たちのことについては、後々どんな方法がよいかということを考えていけるとよいと思いますので、お弁当のよさについてはこれで内容は十分であると思います。

【川口委員】 アンケート結果から6割以上の生徒がお弁当を持参し、食べる量などを調節しているということで、亀山中学校における状況をみてもなるほどそうだなと感じているところです。この考察の中に結果から分かる傾向と対策と書かれていますが、対策とは何のことを指しているのでしょうか。もしも、この考察案の中で、対策にあたるものがあればどのようなことがあるのか教えて下さい。

【事務局】 これは、アンケート結果を事前に委員のみなさんにお渡ししご意見をいただく中で、委員の皆様からこんな課題があるんじゃないかと、そのためにはこのような対策がいいんじゃないかと、対策も含めて書いていただいても結構ですよということでお示した表現です。今検討いただいている考察の中に対策が入っているかという、特に対策めいたものはないかと思います。広く意見を求めるためにその言葉を使っています。

【伊藤委員】 子どもにはなるべく手作りの弁当を持たせたいつもりなんですけれども、男子生徒は家族が作った弁当よりもデリバリーや給食を好む傾向が多いというのも、私も息子がおりましたので気持ちがわかります。しかし、6割以上がお弁当であり、家庭の絆を大切にする亀山の状況があるんだなと感じました。女子は、好みや量で個人差があるというのは、メニューが偏っているんじゃないかなという課題があるのではないかと、それに対して家庭における食育の投げかけが必要になってくるのではないかと思います。

【玉村委員】 保育園は毎日給食なので、園児は遠足の日にはお弁当を持ってくるのですが、おいしそう見た目もかわいい弁当を持ってきて、とても楽しそうに食べています。お弁当は子どもたちにとってとても魅力的なんだなと思います。

また、アンケートを見てお弁当を作っている家庭が多くて、女子においてはお弁当を好むという結果が出たのを見て、改めてお弁当って浸透しているんだなと感じました。仕事などで忙しい家の方も



これだけ奮闘しているんだなと感じました。亀山市は家庭のつながりを大切にしている結果であると感じます。内容としてはこれでよいと思います。

【東委員】

遠藤先生が言われたように、お弁当を持ってこられない状況にある子のことが気になったんですが、お弁当のよさというのはこれでよく伝わるなと思いました。給食を毎日楽しみに食べていた子も、家族が毎日弁当作ると愛情を感じてくれるみたいで、残さずにしっかり食べてきてくれたという話も聞いたことがあります。お弁当のよさはこの考察でしっかり伝わるなと思いました。

【副委員長】

みなさんから意見が出ているように、これは亀山市の文化やと思います。だからこれはもっと前に出していいことだと思います。平等と差別は違います。この地区の文化というのはもっと前に出していいんじゃないかなと。だからこの文章をちょっと直す形で私は賛成です。

【委員長】

財務室長から関中の生徒の結果も考察に示したらどうかということでした。結果についてはそのまま出せばいいと思いますので、よろしいですか。それに加えて、つなぎ方を「このような結果から、このように考えられる」といった因果関係を明確にするということを念頭において事務局でもう一度案を作らせていただきます。

【委員長】

続いて、4ページ、二つ目の考察を考えます。少し時間を持ちますのでお読みください。

それでは、二つ目の考察について、みなさんのご意見を伺いたいと思います。豊田委員いかがですか。

【豊田委員】

先ほど、言われたことと同じですが、関中の場合は現行の給食を望む声が一番多いという結果が現れています。そのことの具体的な記載をするかどうかは別として、このことについては、アンケートの考察としては触れなければいけないと感じます。最初のところで、本田先生が言われたように、考察に書かれていることの根拠がアンケート結果のどこに現れてきているのかを明確にしたほうがよいと思います。この考察は後々の議論の土台となると考えると、きれいな言葉でまとめるのも大事ですが根拠に基づく考察がまずあって、そのあとに意見や考えがでてくるといったように持っていく

方がいような気がします。ですから、この分野については、関中のことについても触れておくべきではないかと考えます。

【委員長】 関中学校の生徒は現行のセンター方式がよいという回答が最も多いという数値が出てきていますが、これをいれるかどうかですね。5 ページに、センター方式についてのまとめがありますので、デリバリーのほうに関中の考察も入れるか、センター方式のところに事実を述べるかということになるかと思いますが、ここにも関中の現状の記載は必要でしょうか。

【大澤委員】 これも先ほどの問6のアンケート結果から見ると、関中においてもデリバリー給食を望む意見が30%以上とかなり高いですので、この部分をどう考察するかということは、必要ではないかと考えます。

【委員長】 4 ページに関しては、おもにデリバリーに関する考察ですので、関中のデータについてはデリバリーの回答結果をあげるほうが流利的には自然かなと思いますので、亀山中、中部中のデリバリーについての回答に含めて、関中の回答結果も加えておくということによるのでしょうか。

【吉崎委員】 デリバリーの考察については、先ほどおっしゃっていただいた意見でよいと思います。

【川戸委員】 私も、デリバリーの考察については、今までおっしゃっていただいた内容でよいと思います。

【櫻井委員】 私も同様の意見です。

【北崎委員】 私はまだ意見がまとまっていないんですが、関中の考察の中にデリバリーの意見もあって、給食とデリバリーの考察をはっきり分けたほうがわかりやすいのではないかと考えています。

【松井委員】 これはデリバリー方式に関しての考察ですから、関中の回答も入れてもいいと思います。

【本田委員】 考察に書かれているとおりでと思いますが、現行の状態に対して

それぞれが大きく変えていってほしいという強い思いを感じていることはうかがえないので、現行について満足しているということはどうかがえますし、必ずしもどちらかにまとめてほしいという状況もうかがえません。この考察でデリバリーのいいところだけまとめるというのが、違う意見もあると思うので、両方あったほうがいいのかという感じがしました。

【東委員】

考察の上から4行目の「依然として弁当が根強い」というのが少しきつい感じがして、デリバリーの考察が弱まってしまうなど感じました。委員の意見からたくさん出てきたキーワードの選択性というところがデリバリーのよさであって、デリバリー派は自分で献立を見て選ぶというように食への関心が高いというのもすごく大事なことだと思うので、このあたりも考察に入ってくるとデリバリーのメリットが伝わるのかなと思いました。だから、弁当が根強いというのをもう少し柔らかい表現にしてはどうかと思います。弁当を好む傾向にあるとかそういった表現の方がよいと感じました。

【玉村委員】

私も弁当が根強いという言葉にはっとしました。あ、そうなのかと単純にとらえてしまったんですが、先生が言われたようにデリバリーのことを考察しているのに、弁当のことを書くとまたかなととらえられるんだなと思いました。

保育園では、年に数回のお弁当を園児がとても喜んでいるんですが、お母さんたちは目先のことにとらわれがちですので、栄養価の方まで意識がいきわたらない面もあります。ということ考えると、そういうお弁当が毎日続くと、栄養が偏ったり、不足したりということが考えられ、子どもたちの成長期の発達に影響を与えてしまうこともありますので、デリバリー給食があるのは大きいことだと思います。考察の後半に書いてありますとおり、デリバリー給食はメニューの選択肢があったり、生徒たちが積極的に食への関わりが持てるということは、よいことだと思います。家族の弁当は愛情たっぷりなんですけれども、家族から与えられた弁当ということ考えると、食育の面ではデリバリーのよさがあるのかなと感じました。

【伊藤委員】

弁当が根強いというところに、デリバリーを選んでいる方は肩身が狭くなるんじゃないかと思いました。家族の事情もありますし、子どもと親御さんとよく話し合っただけでデリバリーを選んだと思うんですよね。そういうことからみたらデリバリーのよさもあると思いま

す。一番は安全安心と言われるんですが、特に夏のお弁当はすごく気を使います。夏場は食中毒にも気を使いますし、痛みやすい食材を入れないようにしたりとか、そういう観点から見ると、安心安全が前に出てくるんじゃないかと思いました。

【川口委員】 この考察の最後から二行目にありますように、弁当とデリバリーを選択できるというのが、大きな魅力になっているのかなと思いますので、この考察でよいのかなと思います。

【遠藤委員】 考察に直接のせるということではないですが、一つ疑問がありますので言わせてください。このアンケートから見えることではないのですが、本日いただきましたデリバリー給食の導入からの流れという表を見ると、4ページに平成26年度の就学援助対象者の利用率が書いてあります。亀山中学校で35.7%、中部中学校で47.4%となっており、就学援助がでるということでデリバリーを利用できるようになっているかと思うんですけども、それにも関わらずこれだけの方が利用しているだけというのは、これ以外の生徒たちは、お弁当を作ってもらっているのか、あるいはもっと他の方法で昼食をとっているのかというあたりが、私自身には見えなくて少し心配になる部分があります。

【委員長】 就学援助対象者でデリバリーを頼んでいない家庭の現状がどうなのかということですが、事務局いかがですか。

【事務局】 4ページに出ておりますとおり、35.7%がデリバリー給食を利用しており、残りの64.3%がお弁当などとなっております。0.1%くらいは、コンビニの弁当の子もいるかもしれませんが、実態としては現場にみえる校長先生の方が感覚的に分かるかと思いますが、いかがですか。

【委員長】 川口先生いかがですか。

【川口委員】 今までそういう観点で見えていなかったもので、はっきりとは言えないんですけども、デリバリーを頼んでいない子は、弁当を持ってきたりたまにはパンの子もいるかと思うんですけども、あからさまにコンビニの弁当を持ってきている子はほとんどいないんじゃないかと思います。

- 【遠藤委員】 心配いたしましたのは、デリバリーの注文の方法が前もっての入金ということがあるので、もしかして利用しづらい部分があるのではないかというところです。
- 【委員長】 援助対象者の方は、入金についてはどうなっているんですか。
- 【事務局】 就学援助対象者については、前年の2、3月で申請を受付、実際お金が通帳に振り込まれるのは7月あたりになりますので、先にお金をもらって注文ができるという流れではありません。
- 【副委員長】 さっきも意見がありました、3行目の終わりから4行目のところは抹消してもらったほうがいいんじゃないかなと思います。献立表は全員に配っているということですが、それは家庭に向けての食育ですよね。それをアピールしながらいくとお弁当のご家庭に対しても栄養バランスを考えてくださいといった家庭の方への食育につながっていくので、この中で訴えていくとよいと感じました。
- 【委員長】 様々な意見が出されましたので、まとめていきます。まず、関中のデリバリー希望者の数値を挙げた方がよいということでした。それから依然として弁当が根強いというのがとても強い表現であるということと、ここではデリバリーの給食についての考察ですので削った方がよいのではないかという意見がありました。実際喫食率は4割弱で、お弁当は6割ということですので、4対6ぐらいの割合なのでそれは事実として書いてもいいのではないかと考えています。もし入れるのであれば、お弁当は半数を超えるとか、半数以上の生徒が回答しているといったような記述でよいのではないかと考えています。あとは、本田先生がおっしゃったように現行の状態です満足をし、変えてほしいという生徒は少ないといったことをいれるかどうか。それから、東先生がおっしゃった選択ができるということがデリバリー方式の給食のよさではあるので、選択性のよさ、デリバリー派は自分で献立表を見てメニューを選択している、積極的に自らの食に関わっているというよさもいれてはどうかという意見がありました。このへんをまとめさせていただいて、事務局と私の方で文章を考えさせていただいてよろしいですか。今私がお説明した中で、改めた方がよいところやもっとこんな文章を入れてはどうかという意見がありますか。

- 【副委員長】 弁当が6割、デリバリーが4割というのは前にでておるんです。ですからここでは必要ないんじゃないかと思います。
- 【委員長】 では、デリバリーのよさを選択性であるとか現行の状態を変えたいと思っていない、満足している傾向にあるとか、関中のデリバリー希望の実際の数値を挙げておくとか、このような内容でまとめさせていただきますので、よろしいですか。また、案としてあげさせていただきますので、そこで訂正があれば言っていただければと思います。
- 【委員長】 続いて、5ページ、三つ目の考察を考えます。少し時間を持ちますのでお読みください。
- 【遠藤委員】 センター方式の学校給食をとっている関中の食育の部分を載せていただいているのですが、決して亀山中学校や中部中学校では食育をしていないということではなく、学校給食とは生きた教材であり、共通のものとして大きな意義を果たしているという意味がありまして、給食というものについて大変大きな意義があると述べていただいていると思います。ここにも書いてあるように給食の提供方法に関係なく、積み上げてきた食に関する指導の大切さなどについて述べていただいています。本当に私たちが大切にしているものを述べていただいていると感じています。
- 【川口委員】 考察を読ませていただいて、今まで、弁当、デリバリーについての考察でしたが、ここは全体についての考察になっていると感じました。気になったのは委員の意見で、給食よりもデリバリーの方が残食が多いというのがわかっているとのことで、学校でも気をつけていかなければいけないと感じました。
- 【伊藤委員】 アスレは幼稚園、保育園ともに給食をしています。給食というのは、ただ食べるだけではなく、嫌いなものでも少しでも食べるということは生活面での意欲につながってきますし、いろんな面で影響をしていくと思いますので、そういう観点から全体をみて、食育には幼稚園、保育園から取り組んでいます。小学校からの学校給食は生きた教材と書かれていますが、私も明日も給食室に入りますが、調理員さんは普段から衛生面を細かいところまで気をつけていて、その努力はかけがえのないものだなと、そこに安全安心な給食があるんだと感じています。デリバリーの残飯が多いというのは、給食

の時間的なことはどうかと、配膳場所までとりにいって、教室に運んで、その間お弁当の子は待っている、そして一齐にいただきますをするんですね。授業が終わってから、昼食の準備をする時間はどうなのかなと、そこにも盲点があるんじゃないかなと思いました。

【玉村委員】

食の提供の中で大切なのは、栄養バランスや安全安心な食材を提供することだと思っています。そこが、給食やデリバリー方式の最大の魅力だと思っています。今、伊藤園長が言われたように現場で給食を作っている調理員さんの姿を見せてもらったり、においを感じたり、給食の先生と関わって食べたり、食の意識を高める教育をする中で食というのは重要であると感じています。平等に食べるということを考えて、中学校給食をすることは重要であるかと思いますが、異物混入やいろんなことが食材が搬入される中で起こっており、気遣う部分もありますので大きくなればなるほど安全管理も厳しいものになるかと思っています。

【東委員】

考察の中の給食の提供方法に関係なくという部分が大事な言葉だと思います。私は亀山市の教職員研修の食育部に所属をしております、人は一生食べていくわけなので、どの場でどんな食事を提供されても残さずに食べるというのは基本だと思います。その大切さとかも小学校やもっと小さいうちから教えていくべきだと思います。やはり積み上げと書いていただいているように食育をしっかりとしていく必要があるかと思いました。⑱の意見は私が出した意見ですが、㉓にもあるようにデリバリーが残しがちになるのは、正直なところかと思っています。誰が作ってくれたものとか、小学校では給食調理員さんを紹介していただいたり、顔写真を貼っていただいたり、自分たちのためにどんな大変な思いをして作ってくれているんだよというのを1年生のときに給食室体験で授業をしていただきます。さすがに中学校のデリバリーの業者に写真を送っていただいとことまではできないと思いますが、どんな食事であっても作っていただいた人がいるのでそういったこともきちんと教えていかなくちゃいけないのかなと感じました。

【本田委員】

私も提供方法に関係なくというところなんです、小学校では給食をしています、積み上げてきた食育がどの方であっても、現状それぞれ差はありますが、今後食育を進めていく可能性を感じまし

た。残食が多いという課題もありますが、そこを起点にこちらの考える対策であったり、子どもたちの取組であったり、そういったものを考えていけるなと思いました。私は小学校の教員なのですが、給食の時間というのは授業と同じで、子どもと一緒に給食を食べる、準備の段階から片付けまでが授業やと思っています。考察のなかに、小学校からの食育指導が反映しているというのを捉えていただいているというのは、そのとおりかなと感じました。でも、どのスタイルであってもそのあとの可能性は感じますし、例えば弁当の子が給食よりも残食が多いというのは、なぜ残してきたのかということを見ると、家に帰ると文句を言える相手がいるということであり、そんな話をする中で、食育につながる可能性もあると感じます。デリバリーが残食が多いのは、作っている人の顔が見えないということもありますし、何か他の理由もあるかもわかりませんが、食育の可能性を感じました。それぞれの方式のよさが表れている考察になっていると思います。

【松井委員】

先ほどから皆さんが言われているように、提供方法に関係なくと書いていただいているのはよいと思います。私自身や子どもも給食で育っていますので、実際給食で食べる食材というのは多いんですね。私は納豆とかは給食で初めて食べて、最初食べれなかった思い出があります。初めて食べる食材や、初めて食べる食べ方もあって、給食は食育という点ではよいと思います。ただ、お弁当やデリバリーがあってもよいと思うので、この考察の案でよいと思います。

【北崎委員】

私は関中校区ですので、子どもは給食で育ってきました。給食は配膳や片づけで学ぶことも多く、子どもたちが同じものを食べるということで仲間意識が芽生えたり、食育の観点からも私は関中学校の給食は維持していただきたいと考えています。関中学校が亀山中と中部中と大きく背景が違うのは、加太地区は遠方からバスと電車に乗って通っている子たちがいます。7時30分からの朝の部活動の練習に間に合わせようと思いますと、朝6時40分の電車に乗って、子どもたちは7時につくというように通学をしています。そういった状況で、子どもたちにとって愛情のこもった、栄養バランスのとれた弁当が一番だと思いますが、果たしてそれが補えるかということもありますので、安心安全で栄養バランスのとれた昼食と考えれば、関中においては給食が最も適していると考えていますので、この考察を支持させていただきます。亀中、中部中のお弁当とデリ



バリーの選択性においては、現状において必要なことかと考えます。

【櫻井委員】

うちの子は亀山中に行っているんですが、毎日お弁当を作っているので今話を聞いていて給食がうらやましいなと思いました。中学校においても食育指導ができるというのはとてもよいことだと思います。今、亀山中と中部中がやっているのか分かりませんが、できるのであれば、例えば月に1回お弁当を作る日があるとか、そういうのができればいいなと思いました。考察に関してはこれでよいと思います。

【川戸委員】

食育は難しくて、家庭でやっているつもりでも専門的なことが分からないので、関中の生徒さんが中学校でも栄養バランスを考えているということを聞いて、学校で統一して食育を進めていただけることありがたいなと感じました。考察に関してはこれでよいと思います。

【吉崎委員】

こちらの考察で感じたのが、中学校でも具体的な食育活動がいったいどういう状況でどんな授業がなされているか気になりました。調理実習もどういったものがされているかは、中学校に通っている息子からは情報を得ることができないので、教えていただきたいということと、義務教育の間に社会に出で行く子どもたちが、与えられているだけでなく、社会に出る前に自分たちで食を考えて作っていくということが大切になってくるので、そういった活動を考えていただければいいなと感じました。もう1点、遠藤先生がおっしゃられた援助対象者の食事がいったいどうなっているのかということも気になりました。お金の方が後からおりということですが、デリバリーを注文して、栄養がきちんと確保されているのかどうか気になりました。デリバリーやお弁当できちんと栄養が確保される方はいいですが、そうでない方は、本当にきちんと栄養を確保できているのかこの考察からは分かりかねるので、そういったことについても具体的に考えてほしいなと感じました。

【副委員長】

遠藤先生から我々が考えないことを言われ、さすがだなと感じました。この文章ですが、前半は給食、後半は全体なので、二つに分けたらどうかと思います。給食を残さないというのは、自分だけ残すのは嫌やなどか色々な意識が働くのかなと思います。食育のことですが、骨粗しょう症、成人病など中学校の教育の中で入っていた

だくと家庭で何を食べてらいいかが分かってくると思います。また、青少年期と60歳以上の体のことも教育の中に入れていただくと、またそれを家庭に発信していくと、家庭の中も変わるのではないかと思います。

【委員長】

たくさんご意見いただきました。全体的にはよいだろうと。一段落目と二段落目については、センター方式の給食でまとまっています。後半は、給食の提供方法に関係なくとあるので、センター方式の給食の考察と全体の考察として、二つに分けた方がよいということですが、どうでしょうか。

(意見なし)

そうします。東先生からのご意見で、作ってもらっている人の顔がみえるというのも大切であり食育につながるということもセンター方式の重要なことなので、入れさせていただきます。それから、副委員長が申された年を重ねるとこうなるよというような意見もありました。他にも中学校における食育はどうなっているのかというようなご意見もいただきましたので、中学生は生涯を通した食育の基礎となることも入れていきたいと思います。

それから、昼食の時間についてもご意見をいただきました。どれくらい時間をかけて食べているのか、時間が足りないのではないのかという点、また中学校の具体的な食育活動はどうなっているのかという点、3点目は就学援助を受けている家庭の生徒さんがどのような昼食を食べているのか、また、前払いということもありご苦労されているのではないかとご意見をいただきました。これについては、次回の資料として提出していただきたいと思います。

他には、月に1度お弁当の日を作ったらどうかとか、与えられてばかりではなく、自分で考えるということなどの様々なご意見は、次回につなげていけたらと思います。それでよろしいでしょうか。

(意見なし)

それでは、事務局と私で内容を精査し、考察を修正します。

次に、これまでもアンケート調査結果については、教育委員会ホームページ等で分析と考察を公表してきました。今回のアンケートは検討委員会の資料として調査したのですが、公表してよろしいですか。

(委員、了解)

それではそのようにいたします。

続いて、平成24年度のアンケート結果との比較について、事務

局より説明願います。また、委員の皆さんからいただいたご意見の中に、検討課題がいくつかありましたので、あわせて事務局より説明願います。

【事務局】 【資料4】中、「平成24年度アンケート結果との比較について」及び「検討課題について」を説明

【委員長】 次の委員会で協議して、意見書のまとめに入りたいと考えています。もちろん、協議が終わらなければ再度開きます。そこで、欲しい資料があればおっしゃっていただきたいのですが、委員のみなさんごいませんか。皆さんからのご意見より総合的な判断をしたいので、何かごいませんか。

【北崎委員】 鈴鹿市で、1学期に一回、親が手伝わずにお弁当を作るという学校があると聞いていますので、その情報を教えていただきたい。加太から関中学校へ行こうと思うと、早朝出発となり、毎日お弁当というのは大変ですが、子どもたちにも色々なことを考えて欲しいのでその資料が欲しいです。

【事務局】 調査します。

【吉崎委員】 今回は生徒の意見をとりましたが、24年度にとったアンケート結果はありますが、保護者の意見も聞いてみたいので、今年度試食されたということでその際とったアンケート結果についても資料としていただきたい。

【事務局】 今回試食された方に対して、可能な方のみアンケートにお答えいただいています。内容は24年度のアンケートとは異なりますが、よろしいですか。

【吉崎委員】 はい、結構です。

【事務局】 提出します。

【本田委員】 亀山市の財政状況ですが、例えば亀山中と中部中の食数が賄える給食センターを建設した場合、一体どれくらいかかるのか、概算でいいので知りたい。また、それが亀山市の同程度の事業だとどんな

ものがあるのかが知りたいです。亀山市全体として、子どもたちに対して行っている事業がどれくらいの予算であるのかなど、私たちにも分かるような資料が欲しいです。

【副委員長】 その資料は必要ですか。それを提出されたら議論が中途半端になってしまうような気がします。今の現状のよさをどう活かしていくかを考えないと。予算があるかないかを議論する場ではないような気がします。

【本田委員】 より客観的にですね、財政的なことを全く知らないまま結論を出すより色々分かっていた方がいいと思いますが。

【委員長】 どうでしょうか。

【原田委員】 給食センターを建てるにあたって、用地や方式など条件によっても変わってくるので、詳細なものは出ませんが、建物の概算であれば出せます。しかし、これが必要かどうかは委員のみなさんにお聞きいただきたいのですが。

【副委員長】 これは議会の問題になってくると思います。我々は給食のことだけ考えていますが、0歳からずっと先の年齢まで市の様々な施策がある中でどうなのかなど。それともセンターの見積りだけ出しているかどうか。でもそれがこの委員会ですんなり参考になるのかが分かりません。

【本田委員】 この委員会がどのような方向に行くかは分かりませんが、この委員会が財政状況も全く分からないまま進んでいいのならいいですが、個人的な意見で申し訳ないですが、どれくらいかかるのかイメージが分かればと思います。決定したけれど、なかなか進まないようであれば困りますし。具体的でなくてもいいので、知識が得たいのですが。他市なら何食くらいでどれくらいの費用がかかったのかという資料でもいいのですが。

【櫻井委員】 以前、関の給食センターの建設の資料があったかと思います。

【委員長】 客観的に見て、こういう事実があるんだというひとつの基準にはなると思います。ご家庭においても、収入と支出を考えて家計を考

えられているわけですし、そういう意味で資料を出していただいて、それを結果に結びつけるのか、それとも別のことでまとめていくのかはこの検討委員会で決めていけばいいのかなと思います。出せる資料は出していただき、総合的に皆さんの意見をまとめられたらと思います。それでよろしいでしょうか。

(委員、了解)

【大澤委員】 事務局へのお願いなのですが、資料ができましたら時間を有効に使えるので、事前に配付していただきたいと思います。

【委員長】 事務局、よろしく申し上げます。他に何かありますか。

【副委員長】 先ほど関中学校でしたか話がありましたが、どれくらいのところからどれくらいの生徒が集まっているのかを教えていただけたらと思います。

【委員長】 それでは、これで本日の議事は終了いたしました。これをもちまして第5回学校給食検討委員会を終了いたします。最後に事務局、申し上げます。

【教育次長】 本日も長い時間にわたり、たくさんご意見をいただきまして有難うございました。

次回は、7月23日、午後1時から4時までを開催予定としております。それでは本日は有難うございました。お気をつけてお帰りください。

—了—